



2026年4月期

第2四半期決算説明資料

株式会社gumi（証券コード 3903） | 2025年12月12日

目次

■ エグゼクティブサマリー	p. 2
■ その他トピックス	p.11
■ 各事業の進捗	p.17
■ 業績の推移	p.28
■ Appendix	p.33

■ エグゼクティブサマリー

■ エグゼクティブサマリー

Q2 決算サマリー：『オラドラ』の大ヒットにより、Q3以降の大幅増収増益に向けた基盤を確立

- ✓ Q2売上は『ジョジョの奇妙な冒険 オラオラオーバードライブ（オラドラ）』の大ヒットに伴い、Q1比で**84%増収**
- ✓ 一方、『オラドラ』の収益寄与期間が約1か月と限定的であったことに加え、リリースに伴う一過性の広告宣伝費（約435百万円）を投下した影響により、一時的な営業赤字を計上（※当該広告宣伝費を控除した営業利益：約200百万円）。Q3以降は収益が通期（3か月）で計上されることに加え、広告宣伝費が定常化する見込みであり、**大幅な増益を見込む**
- ✓ 引き続き、ブロックチェーン等事業における暗号資産の評価益等が寄与し、**親会社株主に帰属する当期純利益は5四半期連続で黒字を計上**

（百万円）

	売上高	営業利益	経常利益	税引前 当期純利益	親会社株主に帰属する 当期純利益
Q1	1,354	72	1,234	1,270	1,247
Q2	2,496	△235	267	203	103
Q2累計	3,850	△163	1,502	1,473	1,351

トピックス

- ✓ 9月25日：『オラドラ』リリース。150万ダウンロードを突破し、好調な滑り出しを記録
- ✓ 10月2日：第26回新株予約権（行使価格修正条項付）の発行による資金調達を決定
- ✓ 10月21日：XRPエコシステムへの貢献を目的とし、XRPトレジャリーを展開するEvernorthへ5MUSDを出資。
また、XRPも市場動向を踏まえ段階的に取得中

エグゼクティブサマリー：中期計画^(※1)の進捗

✓ Q2 累計税引前当期純利益14.7億円を計上。利益目標25億円～40億円に対して**進捗率約48%**^(※2)

2026年4月期

Q2 累計 税引前当期純利益

14.7 億円

修正中期計画利益目標^(※3)

25～40億円

(進捗率36.8%～58.8%)

進捗率



(※1) 2023年6月に策定され、2025年6月に修正されたものを指します

(※2) 約48%は、中央値ベースで算出（25～40億円に対する進捗率36.8%～58.8%の中央値）

(※3) 利益とは、税引前当期純利益を指します

エグゼクティブサマリー：ヒットタイトル創出による安定収益基盤の確立

戦略変更後の第一弾タイトルである『**ジョジョの奇妙な冒険 オラオラオーバードライブ**』が大ヒット中
来期以降も同モデルでのIPタイトルを定期的にリリース

新戦略 ▶▶▶

グローバル認知度の
高い有力IP

×

自社ゲームエンジン

=

再現性のあるヒット
創出モデル

今期：収益基盤の完成

安定フェーズ

安定収益を確保しつつ、次期開発への投資を継続



150万ダウンロードを突破

来期以降：成長基盤の拡充

利益の拡大フェーズ

毎年1～2本を継続投入し、安定収益を着実に積み上げ

投入年度	タイトル	ステータス
2025	オラドラ	配信中 (安定収益)
2026	NEXT IP (外部大型IP)	開発中
2027	NEXT IP (外部大型IP)	開発中

エグゼクティブサマリー：自社IPの戦略的活用

自社IPの活用によるブランド価値の向上と収益機会の拡大

- ✓ StudioZとの協業のもと、2026年春の配信を目指す



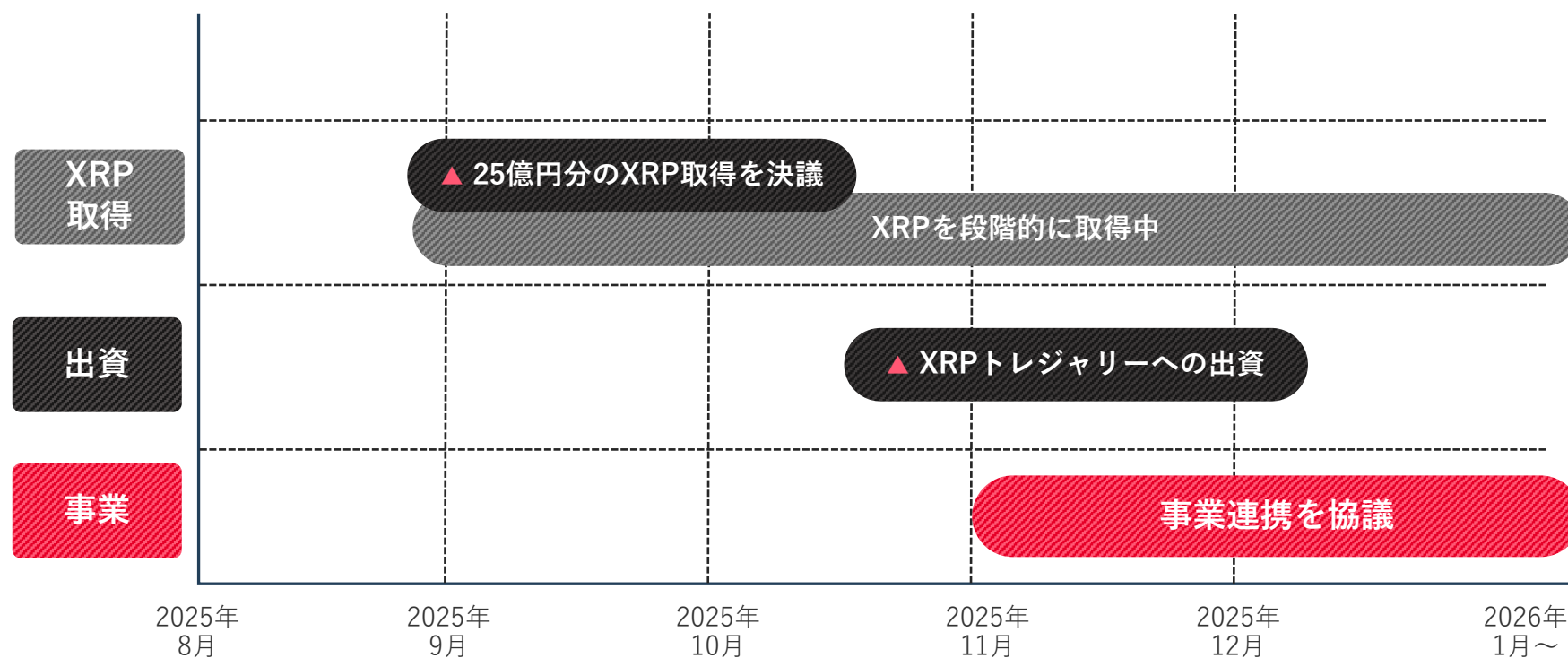
エグゼクティブサマリー：第26回新株予約権(行使価格修正条項付)を発行

調達金額は、実質的に**その全額を成長領域であるブロックチェーン等事業に集中投下**

最大発行株数	1,070万株（発行株式総数の21.6%）
行使期間	2年間（2025年10月21日 ～ 2027年10月20日）
割当先	株式会社 S B I 証券
資金使途	<ul style="list-style-type: none">① 財務基盤強化と機動的な投資余力の確保を目的とした借入金を返済（当該借入金はXRP取得資金として既に活用済み）② BTC/XRPの取得による成長力強化③ ブロックチェーン領域を中心とした投資
gumi 事業方針	<div><div>安定</div>モバイルオンラインゲーム事業</div> <div>主要収益源としての安定運営</div>
	<div><div>成長</div>ブロックチェーン等事業</div> <div>BTC/XRPの取得による収益拡大</div> <div>資金投下対象</div>
	<div><div>革新</div>ネオメディア事業（新規事業）</div> <div>S B I との連携による新たな成長エンジン</div>

エグゼクティブサマリー：XRPの戦略的取得及び事業連携の強化

- ✓ 8月29日、25億円分のXRP取得を決議
XRPの取得については、市場動向を踏まえ段階的に取得中
- ✓ 10月21日、Evernorth（XRPトレジャリー企業）へSBIグループと共同出資（当社より5MUSD）



収益機会の拡大に直結させるべく戦略投資を推進

エグゼクティブサマリー：暗号資産の積み上げ

- ✓ (上表) 暗号資産の受領及び評価益の計上等により、Q1より暗号資産の残高が**約23億円増加**
- ✓ (下表) SBIとの共同ファンドは2025年度中に組成予定
- ✓ 当社グループ（ファンドを含む）における保有残高は**300億円規模に拡大**
- ✓ 暗号資産残高の拡大により、アセットマネジメント事業のリターンの増加に寄与

(百万円)

		投資対象	暗号資産残高		収益の種類
			Q1末時点	Q2末時点	
gumi グループ	gumi Hinode Technologies (gumi × TIS) 他グループ各社	上場暗号資産(※) <div> <div>bitcoin</div> <div>Sui</div> <div>XRP</div> <div>SOLANA</div> <div>⋮</div> </div>	9,886	12,157	値上がり益 運用益
		投資対象	暗号資産残高		収益の種類
			2025年6月末時点	2025年9月末時点	
ファンド	gumi Cryptos Capital 1号	上場暗号資産	6,211	10,287	値上がり益
	gumi Cryptos Capital 2号	非上場暗号資産	7,516	5,111	
	Decima Fund				
	SBI 共同ファンド (gumi × SBI)	上場暗号資産	—	数十億円規模	

- 上記ファンドの暗号資産残高は9月末時点の情報をもとに記載しており、会計監査を受けたものではありません
- 上記数値は、トークン取得を目的としたSAFE等による出資残高を含みますが、株式への出資残高は含まれておりません
- 各ファンドについては、当社の関連会社となり、当社の持分が各々異なるため、当社帰属分はそれぞれ異なります

「収益の種類の意味」

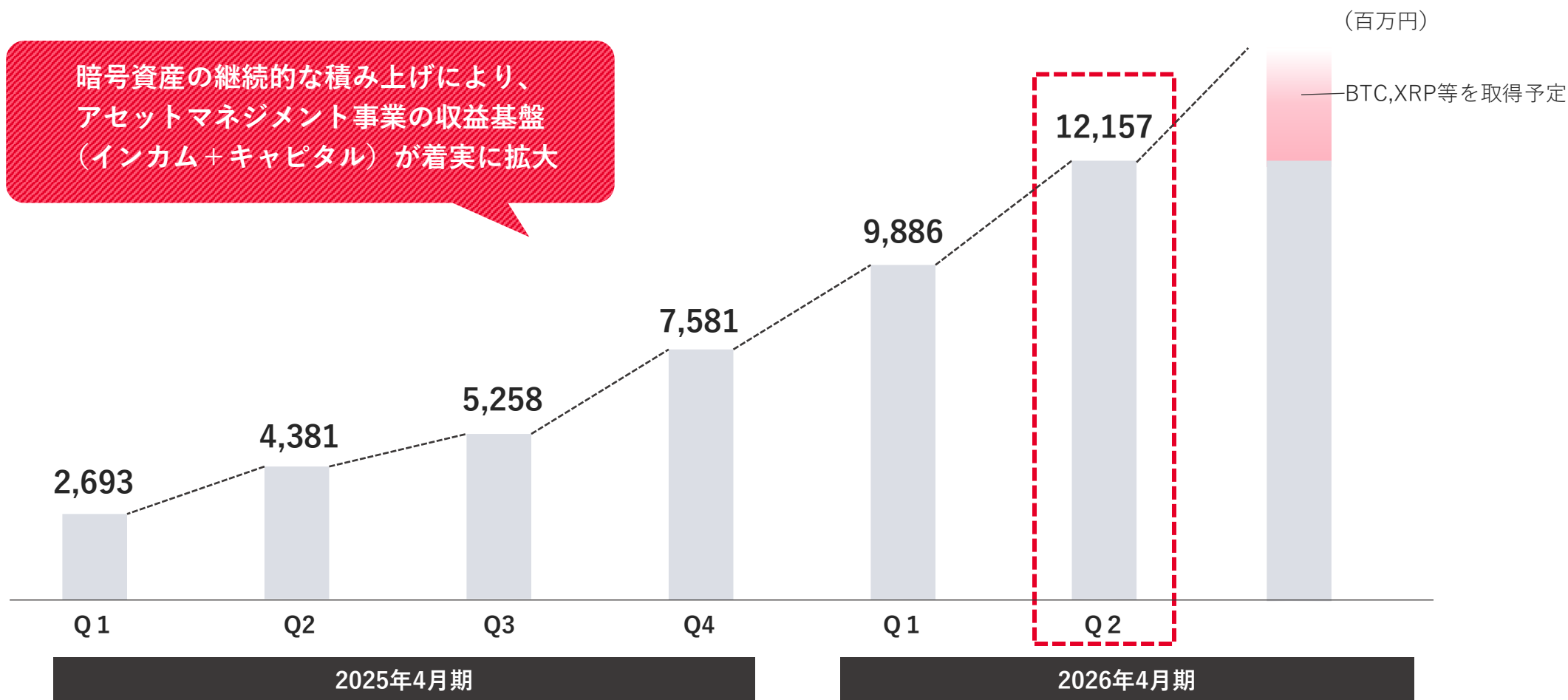
値上がり益：保有資産価格の上昇による利益
運用益：ステーキング報酬などの継続収益

(※) 表示している暗号資産は一例です

■ エグゼクティブサマリー：gumiグループが保有する暗号資産残高の推移

- ✓ gumiグループの暗号資産残高は、Q 2 時点で前年同期比 **+177%**と**大幅増加**
- ✓ 四半期ベースでも継続的に積み上がり、安定した増加トレンドを維持
- ✓ 今後もBTC、XRP等を戦略的に取得し、収益基盤を強化

gumiグループが保有する暗号資産の残高推移（ファンドは除く）



※Q 1 = 7月末、Q 2 = 10月末、Q 3 = 1月末、Q 4 = 4月末

■ その他トピックス

■ その他トピックス： 2026年4月期 第2四半期（PL）

先行投資による一過性の営業赤字を計上。Q3以降においては**大幅な増益を見込む**

- ✓ 売上はQonQで増収。モバイルオンラインゲーム事業の**収益基盤が着実に拡大**（QonQ：+1,141百万円）
- ✓ 一方、新規タイトル『オラドラ』のリリースに伴う広告宣伝費が増加したことを主因として、一過性の営業赤字を計上
- ✓ Q3以降においては、広告宣伝費が定常化し、**大幅な増益を見込む**

（百万円）

	2025年 4月期				2026年 4月期	
	Q1	Q2	Q3	Q4	Q1	Q2
売上高	2,848	2,645	1,911	1,537	1,354	2,496
営業利益	65	114	119	71	72	△235
経常利益	262	728	76	1,036	1,234	267
親会社株主に帰属する 四半期純利益	△167	767	905	557	1,247	103

四半期・累計の前年同期比較

（百万円）

QonQ	累計YonY
+1,141	△1,643
△308	△343
△966	+511
△1,144	+751

■ その他トピックス：2026年4月期 第2四半期 セグメント別業績（PL）

モバイルオンラインゲーム事業は投資先行、ブロックチェーン等事業は収益安定

モバイルオンラインゲーム事業

- ✓ 『オラドラ』リリースに伴う一過性の広告宣伝費（約435百万円）を主因とした一時的な営業赤字を計上
（※当該広告宣伝費を控除した営業利益：約107百万円）。Q3以降は広告宣伝費が定常化し、**安定的な黒字を見込む**

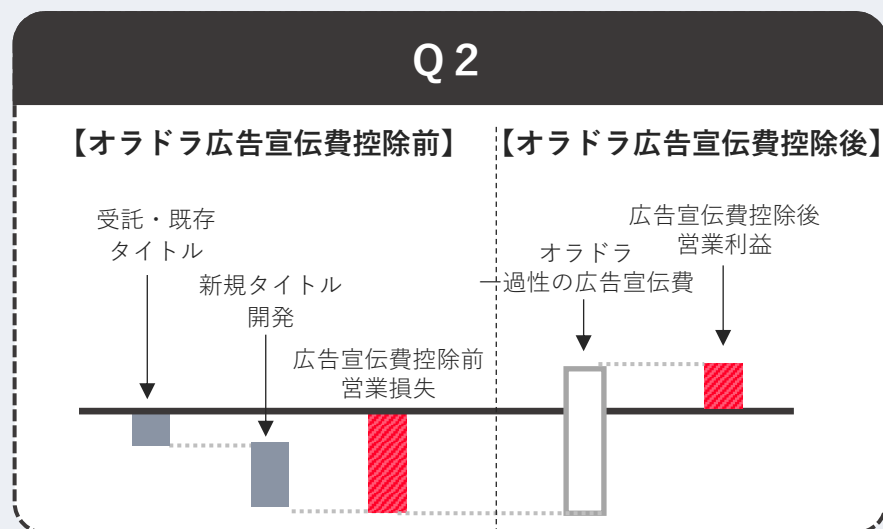
ブロックチェーン等事業

- ✓ 受領した暗号資産の売上が収益に寄与し、ゲーム開発費やアセマネの費用を吸収して営業黒字を計上

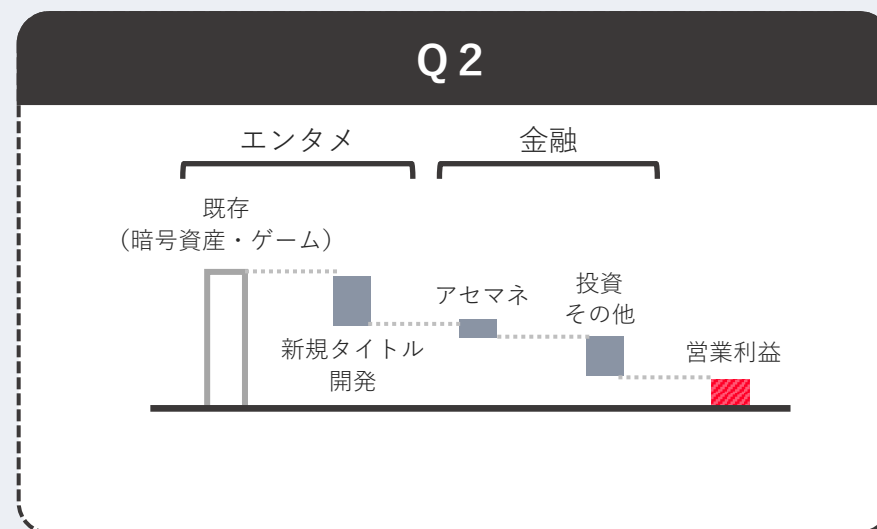
営業損益イメージ

□ プラス要因
■ マイナス要因

モバイルオンラインゲーム事業



ブロックチェーン等事業



■ その他トピックス：ブロックチェーン等事業の利益に関する補足説明

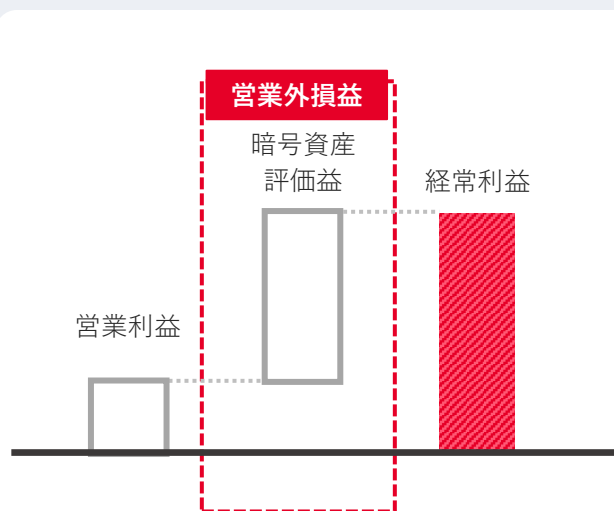
保有する暗号資産の価格上昇により、経常黒字を継続

- ✓ エンターテインメント領域は、継続的に受領している暗号資産の価格が上昇したことに伴い、経常利益を計上
- ✓ ノード運営・アセットマネジメント領域は、暗号資産市況の下落に伴い経常損失を計上したものの、リバランス等の運用により損失幅を抑制
- ✓ 投資その他領域は、VR FUND等にて持分法による投資損失が発生し、経常損失を計上

ブロックチェーン等事業の営業外損益イメージ（Q2）

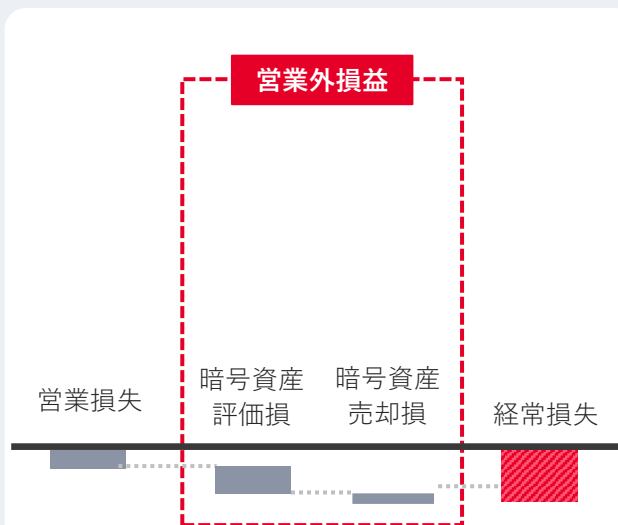
□ プラス要因
■ マイナス要因

エンターテインメント領域/ ゲーム、プラットフォーム



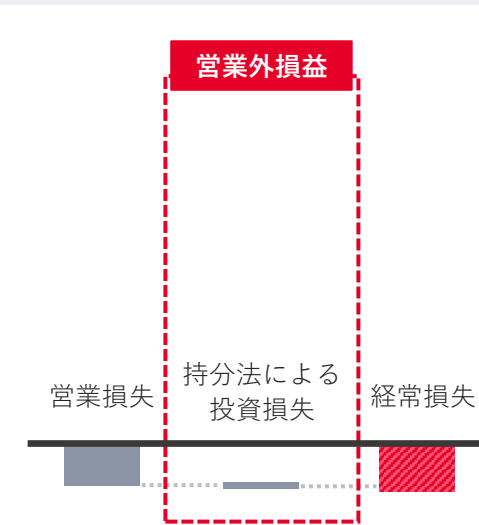
暗号資産の評価益により
セグメント別経常黒字を牽引

金融領域/ノード運営・ アセットマネジメント



暗号資産の評価損等により
一時的に経常損失を計上

金融領域/投資その他



投資損失が発生したことにより
経常損失を計上

■ その他トピックス：AI領域における戦略的投資

将来の事業化を見据えたAI領域への戦略的投資を推進

- ✓ AI分野での新規事業創出に向けた取り組みを推進し、**AIEB_(※)と連携し、シリコンバレーの有カスタートアップ企業への投資**を加速
- ✓ 戦略的観点から、AI企業へ3件の新規投資を実行
- ✓ 今後も数億円規模の投資を想定



投資先一覧（AIEB以外も含む）

▶ AIEBについて <https://www.aientrepreneurs.org/>



AIEBの主な投資パートナー



■ その他トピックス：取締役の辞任について

■ 辞任する社外取締役

岡崎 太輔氏（以下、「岡崎氏」）

■ 辞任年月日

2025年12月12日

辞任の背景

- ✓ 2025年11月20日：モバイルオンラインゲームの開発運用等を行う株式会社オルトプラスが、岡崎氏が代表を務める株式会社オカザキホールディングスの株式を取得するとともに、同社との間で資本業務提携契約を締結し、同社を持分法適用会社化
- ✓ 2025年11月25日：岡崎氏が株式会社オルトプラスの主要株主となる旨が公表

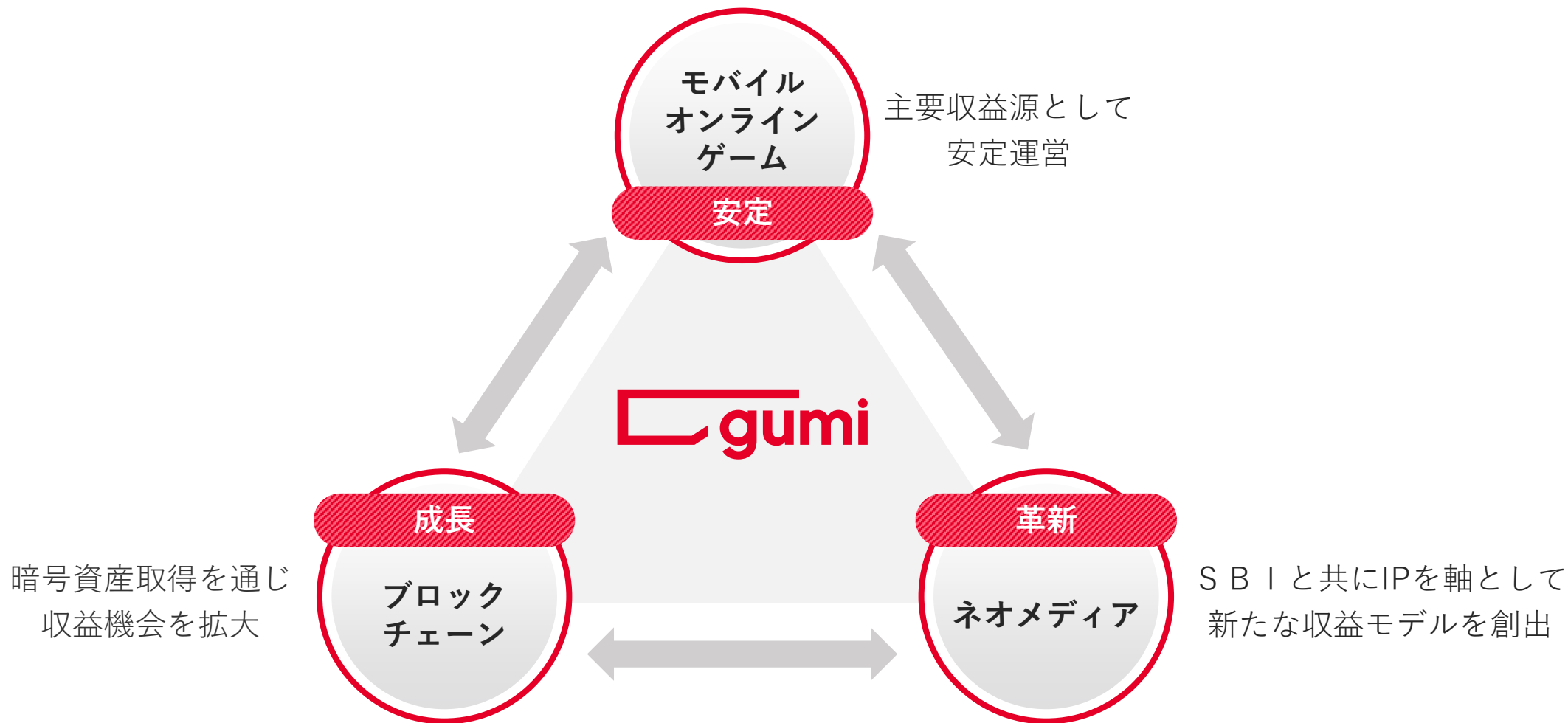
辞任の理由

- ✓ 現時点では利益相反等の問題が発生するリスクの認識はないものの、将来的な潜在的リスク（善管注意義務違反など）を未然に回避する必要性
- ✓ 岡崎氏から当社取締役を辞任することが最善であると申し出を受け、当社取締役会は同氏の辞任を承認

■ 各事業の進捗

各事業の進捗 — 事業方針

【安定】 × 【成長】 × 【革新】 により
持続的な収益成長を実現



各事業の進捗 — モバイルオンラインゲーム事業（戦略）

戦略

有力IPと自社ゲームエンジンを掛け合わせ、厳しい市場環境でも戦えるモデルへ転換

グローバル認知度の高い有力IP



グローバルでの安定したユーザー獲得

×

自社ゲームエンジン



開発費の抑制

||

再現性のあるヒット創出モデル



安定したヒットタイトルの創出

各事業の進捗ー『ジョジョの奇妙な冒険 オラオラオーバードライブ』

戦略変更後の第一弾タイトル『オラドラ』を9月25日にリリースし、**想定通りの大ヒット**
10月20日時点で**150万ダウンロードを突破**



- ▶ GVG（ギルド対ギルド）の導入による継続率向上や
PC版のリリースにより収益拡大を図る



■ 各事業の進捗 — ブロックチェーン等事業

エンタメ/ブロックチェーンゲーム

『ブレフロ バーサス』を10月22日にリリースするも苦戦
市場環境を鑑み、新規開発投資は抑制し、金融領域へ経営リソースを集中

運営進捗

■ ブレフロ バーサス

- 苦戦が続いていることから、費用構造を見直し、コスト最適化型の運営へ移行

開発プロジェクトの状況

■ IPタイトル（1件）

- 新規開発投資は抑制。

マーケット動向を見極めたうえで、適切なタイミングで今後の方針を決定

各事業の進捗 — ブロックチェーン等事業（gumiの得意領域）

金融/ノード・アセットマネジメント

金融 × ブロックチェーン = 当社独自の収益モデルを構築
企業価値の持続的成長を牽引するドライバー

実績

■ 大手企業との協業実績

- ノード運営・アセットマネジメントにて実績を蓄積
- TISと合併会社を設立し、ノード運営拡大
- SBIとは上場暗号資産ファンドを組成予定（2025年度中）



モデルの構造

■ gumiの優位性

- 暗号資産の「保有」と「運用」により、キャピタルゲインとインカムゲインを両立
- SBI/TISとの連携により、運用体制と展開力を確立
- 金融×ブロックチェーンを融合した運用モデルを構築

各事業の進捗 — ブロックチェーン等事業（アセットマネジメント事業の基本戦略）

金融/ノード・アセットマネジメント

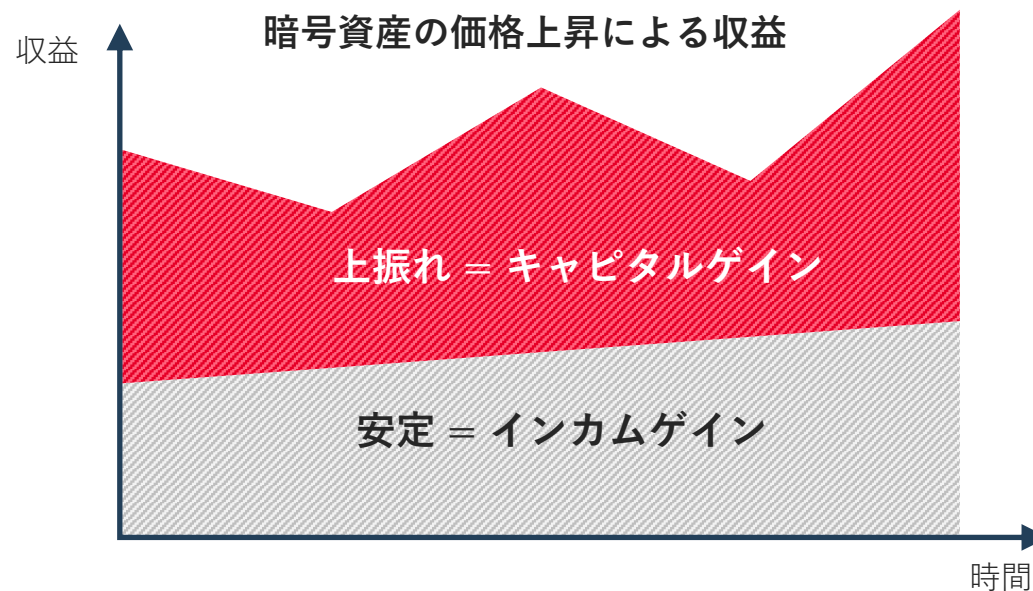
長期的な市場拡大トレンドを背景に、
安定収益の確保と暗号資産価格の上昇による収益拡大を目指す

- ✓ 当社はBTC・XRPなどの暗号資産を保有と運用で両立させ、インカムゲインとキャピタルゲインを獲得
- ✓ 他社が「保有中心」である中、当社は能動的な運用によって差別化を図り、独自の収益モデルを構築

暗号資産市場の時価総額



ブロックチェーン等事業の基本戦略



保有資産の活用により継続的に受領できる収益
(ステーキング報酬等)

各事業の進捗 — ブロックチェーン等事業（安定収益×値上がりで収益拡大）

金融/ノード・アセットマネジメント

基本戦略にのっとり、BTCを事業資産として活用し企業価値向上を目指す



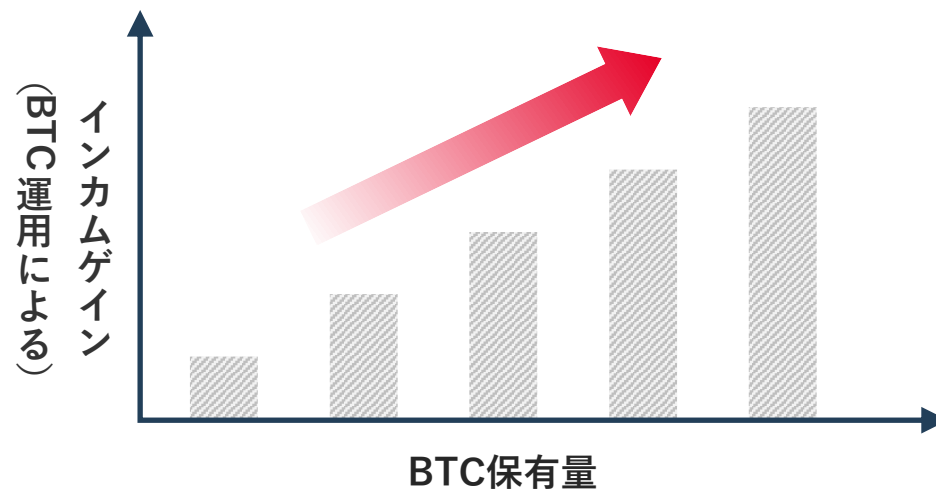
■ BTCを「事業資産」として活用

- 運用で安定収益（インカム）を獲得
- 長期保有で価値上昇（キャピタル）を狙う



**BTCを「事業資産」として位置づけ、
収益機会を創出**

■ BTCなどの保有量に比例してインカムゲインが増加



※BTCを例にした暗号資産運用の一般的なイメージ図

各事業の進捗 — ブロックチェーン等事業（SBIとの連携による新たな収益機会の創出）

金融/ノード・アセットマネジメント

国際送金・流動性ネットワークの中核を担う
XRPのエコシステムに参画し、収益機会の拡大を目指す



XRPである理由

- 時価総額 No.4の主要暗号資産
- 国際送金インフラ（**実需が進展**）
- SBIの強力なエコシステム
- ETF/ステーブルコインなど**制度進展**

gumiがXRPで創る収益機会

- ステーキング/レンディングによるインカム
- ETF上場を見据えた運用（安定収益モデル）
- 国際送金・決済領域での取扱機会
- 新規事業への活用（デジタルアセット分野）

(※)当社による戦略を記載したものであり、確定事項ではありません

各事業の進捗 — ブロックチェーン等事業（ファンド運用実績及び将来の柱となる事業の育成）

金融/投資

3つのファンドを継続的に立ち上げ、業界トップクラスの実績を蓄積

- ✓ 現在は**2ファンドが成長フェーズ**にあり、中期での収益貢献を見込む
- ✓ 個人投資家向けの金融商品の開発も見据え、**SBIと共同でファンドを組成**

ファンド規模

21M USD	回収 フェーズ	<ul style="list-style-type: none">- 投資倍率：7.8倍 当社への帰属分：約58億円- シリコンバレーの暗号資産・web3シード案件に投資- 既に元本回収を達成し、さらに追加リターンを見込む
110M USD	成長 フェーズ	<ul style="list-style-type: none">- 現在、60件に投資実行、消化率75%- シリコンバレーの暗号資産・web3シード案件を中心に展開- 成長余地の大きい複数案件で収益拡大を狙う
40M USD	成長 フェーズ	<ul style="list-style-type: none">- 現在、29件に投資実行- 未上場案件に加えて、上場暗号資産にも投資- 未上場と上場暗号資産を組み合わせ、収益ポテンシャルを最大化
数十億円	組成中	<ul style="list-style-type: none">- 1stクロージングに向けて推進- これまでの実績をもとに、上場暗号資産を対象とした新たなファンドとして組成

— 2018年設立
**gumi
Cryptos
Fund I**

— 2022年設立
**gumi
Cryptos
Fund II**

— 2024年設立
DECIMA*

— 2025年設立予定
**SBI
共同ファンド**

各事業の進捗ーネオメディア事業（SBIとの連携による次世代メディア戦略）

ネオメディア事業

“IPを流通させるSBI” × “IPを育てるgumi”で、
グローバル市場を視野に入れた次世代メディア戦略を共創

SBIの構想

ネオメディア戦略

- 1,000億円ファンドによるIP取得推進
- 今後立ち上げるメディアプラットフォームでのIP活用

gumiの強み

- ゲーム・アニメ・音楽等のエンタメコンテンツの展開力
- 国内/海外の著作権元との強固なネットワーク
- これまでの投資実績に基づく様々なIPへの知見/目利き

SBI × gumi の戦略的シナジー

①
アニメ・漫画・
ゲーム

- ・ 著作権元との連携強化による既存IPの更なる獲得及び新規IPの創出

②
音楽・芸能

- ・ アーティストやインフルエンサーとの連携による新たなサービスの創出

③
スポーツ
その他

- ・ リアルな体験を軸としたオフラインにおけるエンターテインメントサービスの提供

SBIとの共同検討を進め、
事業構想の具体化を推進中

■ 業績の推移

四半期業績の推移（売上高・利益）

ハイライト

- ✓ 売上高は、主に『オラドラ』のリリースにより増収
- ✓ 営業利益は、『オラドラ』のリリースに伴う広告宣伝費を主因として一時的に減益

売上高

24.9億円 YonY Δ 5.6%
QonQ + 84.3%

営業利益

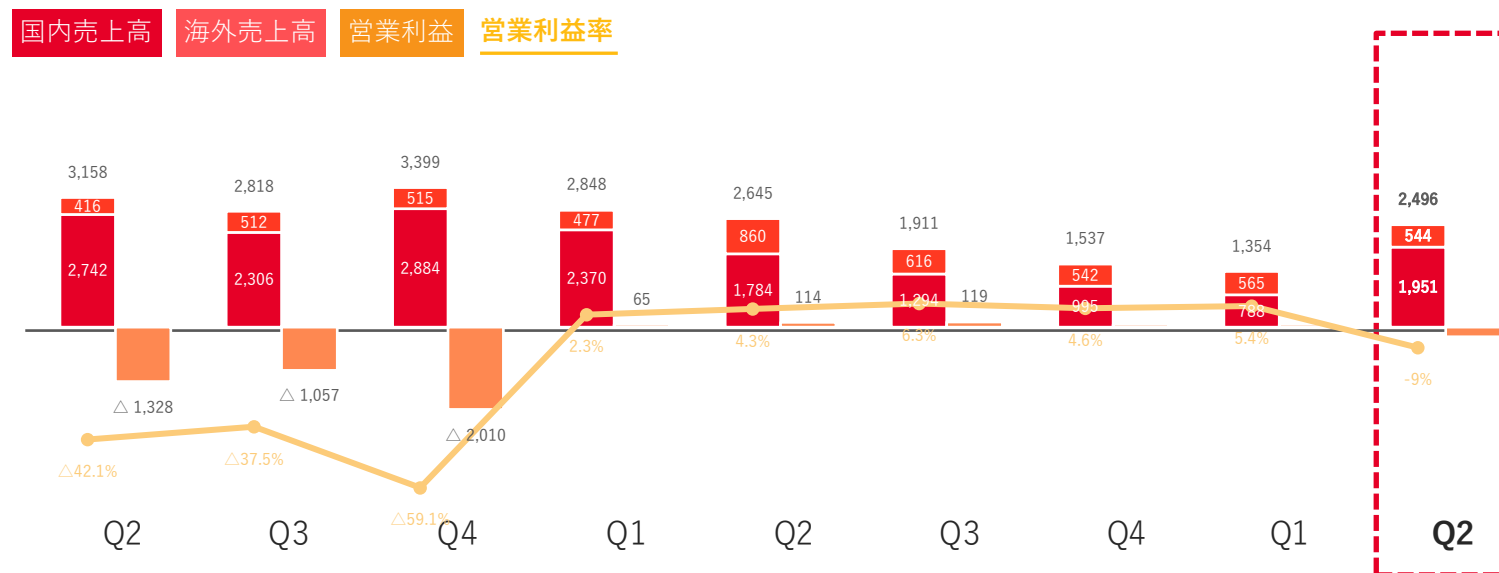
Δ **2.3億円** YonY -
QonQ -

海外売上高比率

21.8%

売上高及び営業利益

(百万円)



	2026年4月期 Q2	2025年4月期 Q2	前年同期比	2026年4月期 Q1	前四半期比
売上高	2,496	2,645	Δ 5.6%	1,354	+84.3%
売上原価	1,655	2,115	Δ 21.8%	846	+95.7%
売上総利益	840	529	+58.8%	508	+65.4%
売上総利益率	33.7%	20.0%	-	37.5%	-
販売管理費	1,076	414	+159.4%	435	+147.0%
営業利益	Δ 235	114	-	72	-
営業利益率	Δ 9.4%	4.3%	-	5.4%	-
経常利益	267	728	Δ 63.2%	1,234	Δ 78.3%
親会社株主に帰属する四半期純利益	103	767	Δ 86.5%	1,247	Δ 91.7%

四半期業績の推移（費用）

ハイライト

- ✓ 開発費は、Q 1 とほぼ同水準で推移
- ✓ 広告宣伝費は、『オラドラ』のリリースに伴い、QonQで増加

開発費

8.6億円
YonY $\triangle 34.1\%$
QonQ $\triangle 0.2\%$

広告宣伝費

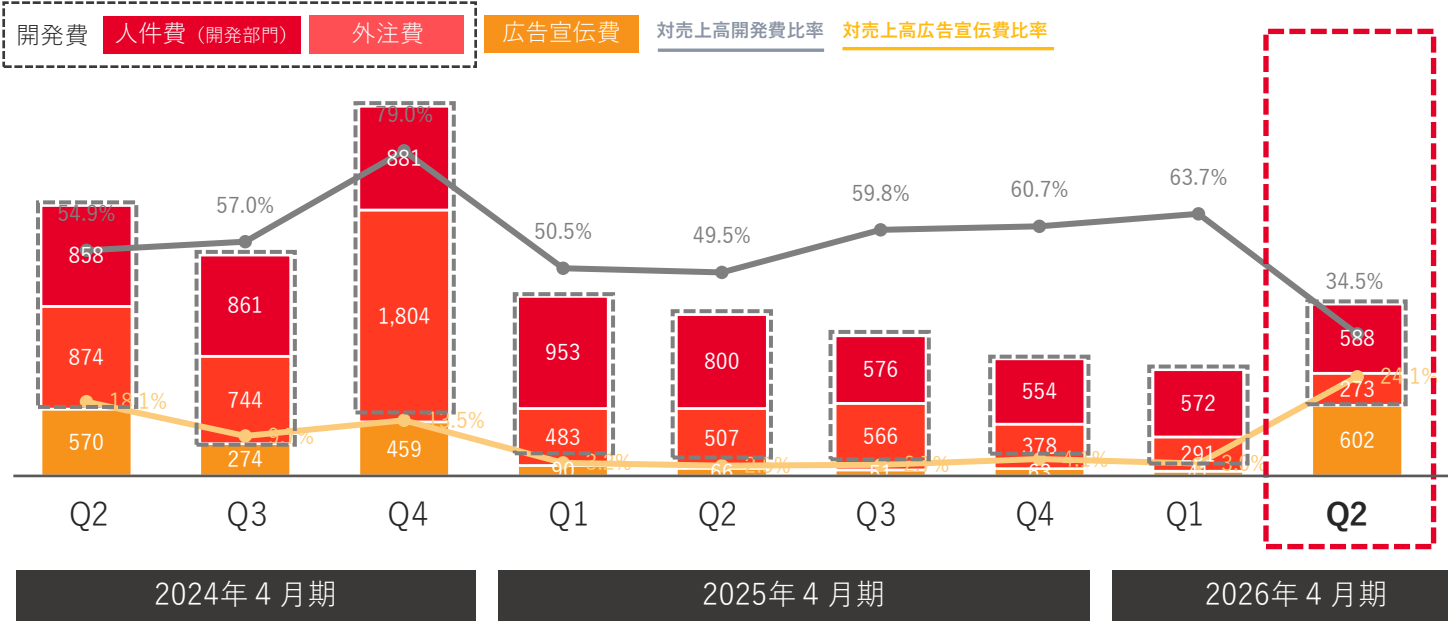
6.0億円
YonY $+809.7\%$
QonQ $+1,338.0\%$

対売上高広告宣伝費比率

24.1%

開発費及び広告宣伝費

(百万円)



(百万円)	2026年 4 月期 Q2	2025年 4 月期 Q2	前年同期比	2026年 4 月期 Q1	前四半期比
売上原価	1,655	2,115	$\triangle 21.8\%$	846	$+95.7\%$
支払手数料	795	783	$+1.6\%$	228	$+248.9\%$
人件費	588	800	$\triangle 26.5\%$	572	$+2.8\%$
外注費	273	507	$\triangle 46.1\%$	291	$\triangle 6.0\%$
通信費	283	206	$+37.0\%$	115	$+144.8\%$
その他	$\triangle 285$	$\triangle 182$	-	$\triangle 361$	-
販売管理費	1,076	414	$+159.4\%$	435	$+147.0\%$
広告宣伝費	602	66	$+809.7\%$	41	$+1,338.0\%$
人件費	264	143	$+84.8\%$	155	$+69.9\%$
その他	209	205	$+1.8\%$	238	$\triangle 12.2\%$

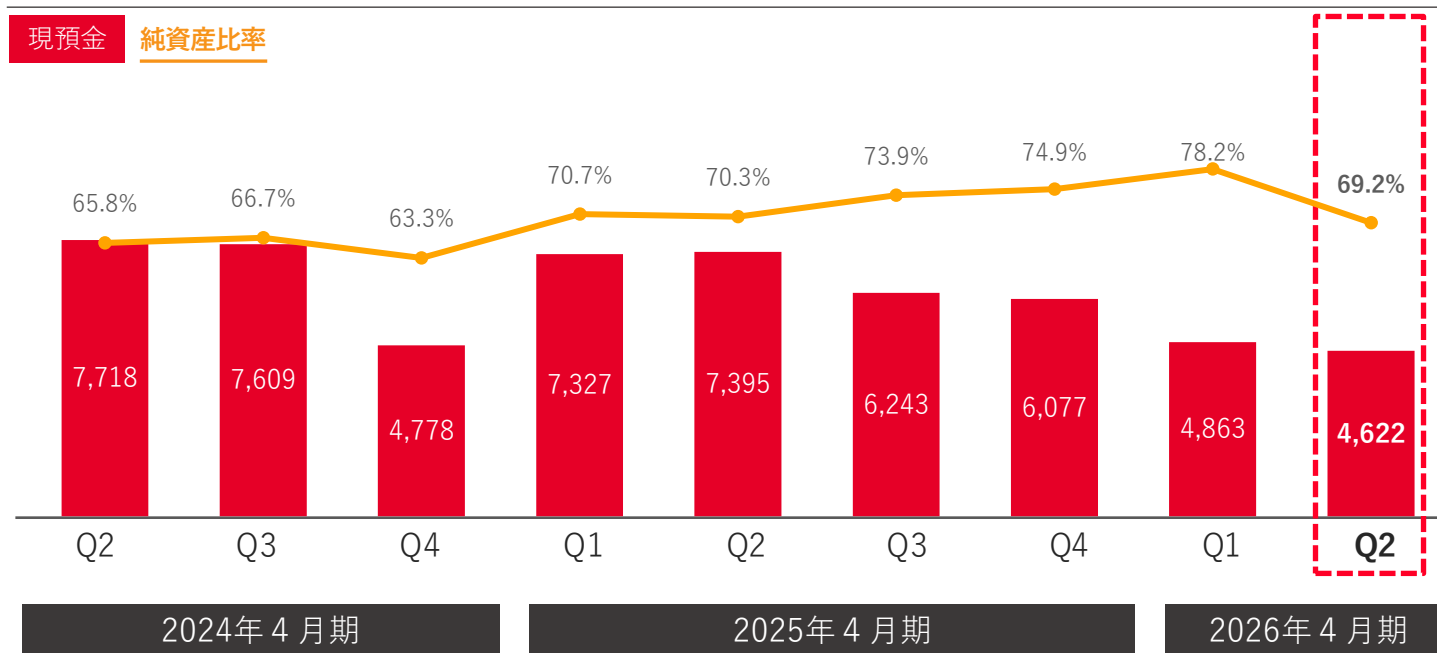
四半期業績の推移 (BS)

ハイライト

- ✓ 現預金は、Q1 とほぼ同水準で推移
- ✓ 純資産比率は69.2%と引き続き健全な水準を維持
- ✓ 10月2日に新株予約権の発行による資金調達を決定（現在、資金調達中）

現預金及び純資産比率

(百万円)



現金及び預金

46.2億円

YonY Δ 37.5%

QonQ Δ 5.0%

純資産比率

69.2%

(百万円)	2026年 4 月期 Q2	2025年 4 月期 Q2	前年同期比	2026年 4 月期 Q1	前四半期比
流動資産	19,390	14,165	+36.9%	16,275	+19.1%
現金及び預金	4,622	7,395	Δ 37.5%	4,863	Δ 5.0%
固定資産	9,433	8,546	+10.4%	8,577	+10.0%
総資産	28,823	22,711	+26.9%	24,852	+16.0%
流動負債	7,882	5,681	+38.7%	4,542	+73.5%
固定負債	988	1,073	Δ 8.0%	868	+13.8%
純資産	19,952	15,956	+25.0%	19,441	+2.6%

四半期業績の推移（人員数）

ハイライト

- ✓ 人員数は概ね横ばいにて推移
- ✓ 今後も必要に応じて体制の見直しを行い、コストの最適化を図る

人員数（連結）

368人

国内人員

333人

海外人員

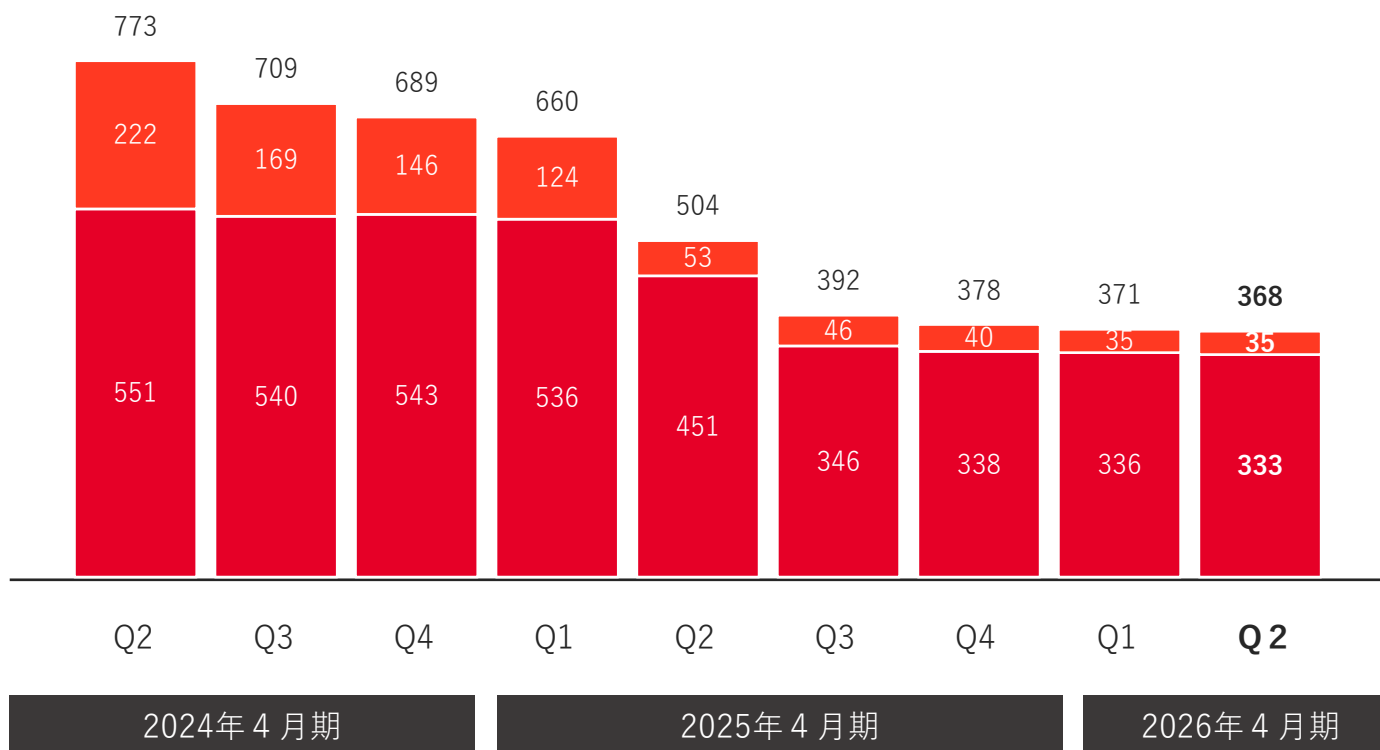
35人

人員数（連結）

（人）

国内拠点

海外拠点



■ Appendix

業績の向上並びに株価上昇に向けた具体的な取り組み

			2026年4月期			
			Q1	Q2	Q3	Q4
モバイルオンラインゲーム事業	既存		黒字運営（運用赤字となる前に新規タイトルに順次人員移管）			
	新規	IP配信	<input checked="" type="checkbox"/> ジョジョの奇妙な冒険			
		受託配信	受託（将来的なIP展開を視野に入れ推進中）			
ブロックチェーン等事業	OSHI3	コンテンツ配信	<input checked="" type="checkbox"/> プレフロパーサス			AIコンテンツ
		アライアンス公表	SPSTとのマーケティング連携、TIS・TOPPAN等につき、大手企業とのパートナーシップ開拓			
	ノード運営		<input checked="" type="checkbox"/> TISと共同設立したHinode Technologiesにてノード運営事業を強化			
	アセットマネジメント		BTCに加え、XRPも戦略的に取得予定			
	投資		SBIと共同で上場暗号資産ファンドを設立（2025年中に運用開始）			
			当社グループが保有する投資有価証券の売却、ファンドからの継続的な投資回収			
			上記資金を活用した暗号資産投資、M&A等			
	他		コンサル事業立上げ（NUE3）			SaaS事業立上げ
他	新規事業の創出		<input checked="" type="checkbox"/> SBIとの連携によるネオメディア事業の推進			

（※）上記スケジュール現時点の情報に基づいたイメージであり、状況により計画が大きく変動する可能性があります

運営タイトルの状況

タイトル名	配信時期	サービス状況
クリスタル オブ リユニオン	2016年 4 月	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 季節イベント等を実施 ✓ 年末年始施策等を予定
WAR OF THE VISIONS ファイナルファンタジー ブレイブエクスヴィアス 幻影戦争 (※)	2019年11月	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 有力IPとのコラボや6周年前施策等を実施
ラグナドール 妖しき皇帝と終焉の夜叉姫	2021年10月	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 有力IPや自社IPとのコラボ、3周年記念施策等を実施 ✓ 季節イベント等を予定
ファントム オブ キル -オルタナティブ・イミテーション-	2024年 3 月	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 1.5周年記念施策等を実施 ✓ 年末年始施策等を予定
ジョジョの奇妙な冒険 オラオラオーバードライブ	2025年10月	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 2025年 9 月25日リリース ストア無料DLランキング1位となる等好調にスタート ✓ 年末年始施策等を予定

© SQUARE ENIX Co-Developed by gumi Inc.

(※) WAR OF THE VISIONS FINAL FANTASY BRAVE EXVIUS 幻影戦争（販売/配信元：スクウェア・エニックス）の開発運営をgumiが担当

©荒木飛呂彦&LUCKY LAND COMMUNICATIONS/集英社・ジョジョの奇妙な冒険THE ANIMATION PROJECT

©A/S, JOJO A P ©A&L/S, JOJO SC ©L/S, JOJO DU ©L/S, JOJO GW ©L/S, JOJO SO ©gumi

OSHI3とは（再掲）

ブロックチェーン等事業の中核となる新たなトークン経済圏を立上げ（OSHI3）



ブロックチェーン技術

×

コンテンツプラットフォーム



既存の“推し活”をデジタル領域にまで拡張

新たなトークン経済圏を構築

本資料は、株式会社gumi（以下「当社」といいます。）並びにその子会社及び関連会社（以下、当社と併せて「当社グループ」と総称します。）の財務情報、経営情報等の提供を目的としたものです。

本資料に記載されている当社グループ以外の企業等に関わる情報及び当社グループ以外の第三者の作成に係る情報は、公開情報等から引用したものであり、当社は、かかる情報の正確性、完全性及び適切性等について何らの検証も行っておらず、また、これを保証するものではありません。

なお、本資料に含まれる全ての情報は、予告なしに変更される場合があります。

本資料は、当社の有価証券の取得に係る投資勧誘を目的としたものではなく、当社の有価証券への投資判断にあたって必要な全ての情報が含まれているわけではありません。



～ すべての人々に感動を ～